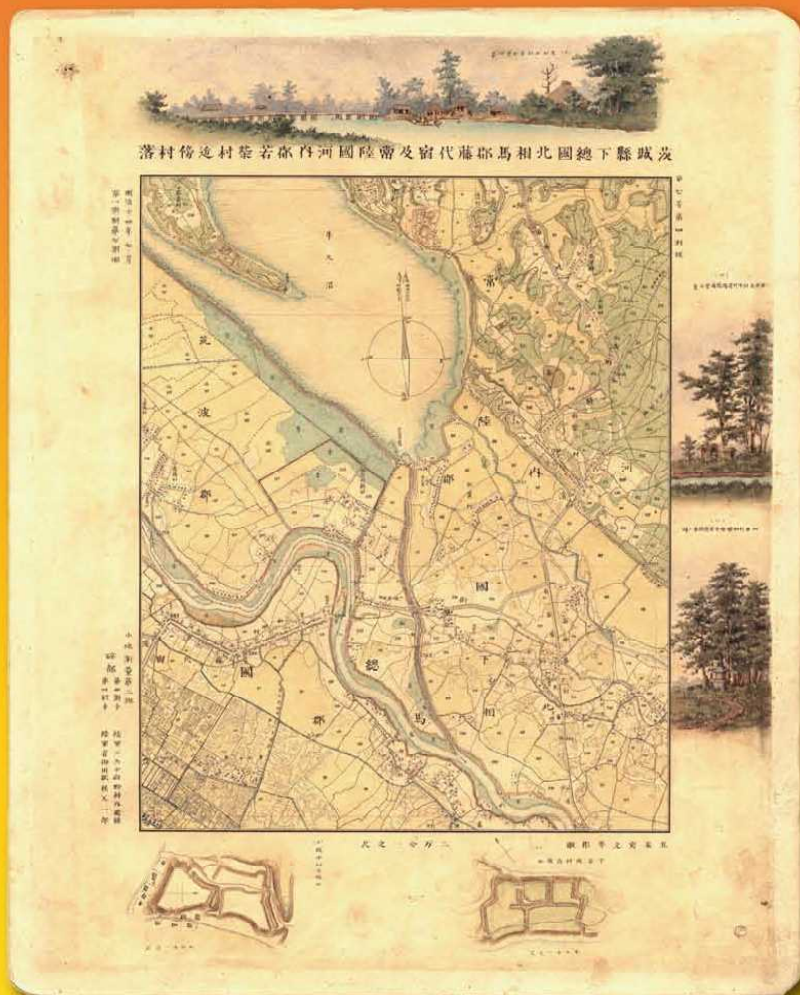


企画展

近代測量の幕開け



明治の彩色図「迅速測図原図」



三角測量を支えた
「カルツェンベルヒ 一等経緯儀」

明治期の地図や
測量機器を公開！



近代化の礎「日本水準原点と日本経緯度原点」

＜開催期間＞ 2018年 11月13日(火) から 12月24日(月)

地図と測量の科学館

入場無料

茨城県つくば市北郷1番 国土地理院構内

URL <http://www.gsi.go.jp/MUSEUM/>

交通案内

- ・TXつくば駅から関東鉄道バス5番乗り場（建築研究所・下妻駅行）乗車、約10分、「国土地理院」下車
- ・サイエンスツアーバス……研究機関等を巡る1日乗降自由の周遊バス（土日・祝日運行）
- ・無料駐車場あり（大型可）
- ・<http://www.gsi.go.jp/GSI/CONTACT-g-kotu.html>

＜開館時間＞ 9時30分から16時30分

＜休館日＞ 毎週月曜日

（ただし、12月24日は開館し、翌日火曜日が休館となります。）



国土交通省国土地理院

URL <http://www.gsi.go.jp/>



開催にあたって

明治以降、近代国家への第一歩を踏み出した日本は、明治期において多岐にわたる近代化への取り組みを行い、国の基本的な形を築き上げていきました。政府では、「明治150年」を迎える平成30年（2018年）を節目として、改めて明治期を振り返り、将来につなげていくために、様々な取り組みをしています。

今回、国土地理院「地図と測量の科学館」においても、江戸から明治になり近代国家の礎となる測量や地図の世界を伊能忠敬の時代から明治期の測量機器や地図を中心に展示し、近代測量の幕開けとして紹介します。

近代測量は、明治12年（1879年）に全国測量・全国地図作成の基礎計画が打ち出され測量の基準となる一等三角点、一等水準点を設置する基準点測量が実施されることから始まりました。また、地図については、迅速に都市域の地図を作製する必要から平板測量による迅速測図原図（関東平野）の作製が始まりました。迅速測図原図（関東平野）は、全部で921図面あり、今回の企画展ではその原本の一部を展示しています。その後、日本の国土の地形を知るための5万分1地形図や2万5千分1地形図の整備が開始され、現在は、2万5千分1地形図、空中写真等をデジタルデータとした電子国土基本図の整備を実施しています。

このように明治以降の国土を正確に把握し管理するために実施された測量や地図作製は、戦災からの復興、高度成長の支えとなり、災害時の迅速な対応にも繋がっています。

現在、UAV（ドローン）を使った測量やスマートホンで確認する地図など、いつでも、どこでも、だれでもが使用している測量技術や地図は、私たちの生活には欠かすことの出来ない技術でありツールになっています。日頃、気づかずに使用している測量技術や地図について、近代測量の幕開けであった明治期の測量機器や長い時間をかけて作製した美しい地図をご覧ください、先人達の技術を感じるとともに、日本の国土や社会を確立するために必要不可欠である測量や地図の重要さを感じていただければ幸いです。

【主な展示内容】

- 伊能忠敬の測量と地図
- 明治期の測量と地図
 - ・基準点と三角測量
 - ・迅速測図原図（原本）を公開
- 測量と地図の役割